

東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けた「チームヒアリング」 ～橋本オリパラ大臣と日本オリンピック委員会の女性理事が対談～

日 時 令和2年1月21日（火）14時～14時55分

場 所 橋本大臣室

来 訪 者 公益財団法人日本オリンピック委員会理事

小谷実可子様、高橋尚子様、山口 香様、山崎浩子様

対談概要

<東京大会に向けた機運の醸成について>

- 政府が行っている取組についての広報が少ないのではないかと。インパクトのある広報には、メディアを活用することが重要。オリンピックがインフルエンサーになって発信し、盛り上げていくことが大事。
- 日本中が盛り上がったラグビーW杯日本大会でも、開催1年前はあまり認知されてはいなかった。大会を盛り上げるには、子供、女性、地域の参加が必要だと思うが、地域で行われる関連イベントに、小さな子供がいる家庭も参加できるようになると良い。
- ロンドン大会では、サッカーのベッカム選手がパラリンピックを盛り上げた。知名度のある人に協力してもらうなど、もう少し協力し合ってやっていけたら良い。
- 東京大会の参加国・地域と日本国内の自治体が交流する「ホストタウン」のPRにオリンピック、パラリンピックが関わっていくのがよいのではないかと。サッカーW杯日韓大会でのカメルーンと大分県中津江村（現：日田市）のような交流が理想的である。
- 観戦チケットやボランティアに当たらなかった方々でも、東京大会に何かしら携わる機会があると良いと思う。
- 日本代表選手団は、渡航・滞在等の制約がない自国開催では、出場機会を終えた選手が他の競技を応援することができるので、日本代表選手団や大会自体を盛り上げられる。
- シドニー大会の聖火リレーランナーとして、オーストラリアのある地域で走らせていただいたが、現地の子供たちが声援してくれただけでなく、私のことをリスペクトしてくれたことに大変感激した。東京大会でもリスペクトの姿勢が大事。



対談の様子（左から、高橋理事、小谷理事、山口理事、山崎理事）

<東京大会を契機とした共生社会の実現等について>

- バリアフリー化について、例えば、駅のエレベータやエスカレータが少ない。大きなスーツケースを持った訪日外国人や乳幼児がいる親にはとっては移動が大変である。
- 困っている人を助けるといった、心のバリアフリーの取組も重要。東京大会を契機に住みやすい東京・日本にしていければ良いと思う。
- 東京大会に向けて取り組んでいることの全てがうまくいくとは限らないので、東京大会で得られた課題をポジティブに捉えてどのように解決していくかが大事。



対談の様子（右側奥から、藤原内閣審議官、橋本大臣、平田内閣官房参与（事務局長）、河村内閣審議官）

<スポーツ界の発展、女性の活躍について>

- 橋本大臣と小池都知事が前面に立って国政、都政に取り組まれていることは、女性の社会的地位向上にとって良いことである。団体役員の女性比率の向上は、スポーツ界だけでなく日本社会全体の課題である。
- 橋本大臣や鈴木スポーツ庁長官のように、オリンピックが主要ポストでスポーツの価値を発信していくことが重要。諸外国でもオリンピックが主要ポストに就任している。
- オリンピック競技とパラリンピック競技、オリンピック競技同士、パラリンピック競技同士での競技団体の横のつながりが広げられると良いと思う。陸上競技の日本選手権では、パラリンピック競技の一部種目も実施して、観客の方々にパラリンピック競技の普及も行っている。

- スポーツ界では女性アスリートは活躍しているが、女性の役員・指導者・ドクター・審判員も増やすことが必要。アスリートのセカンドキャリアにもつながっていく。そのためには人材を育成する必要がある。
- 女性のキャリアには人生設計が大きく関わってくる。出産で休業すればキャリアが中断してしまうことが大きい。女性が社会参画することが当たり前となるような雰囲気作りや、出産後もキャリアを継続できるように、託児所の整備等、女性が働く環境の充実が必要。



(左から) 河村統括官、小谷理事、山口理事、橋本大臣、平田事務局長、山崎理事、高橋理事、藤原統括官